

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

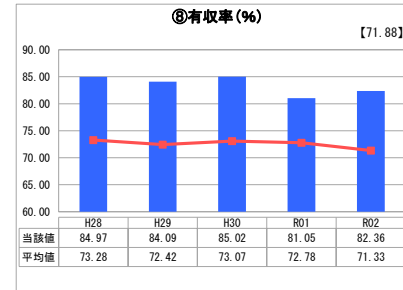
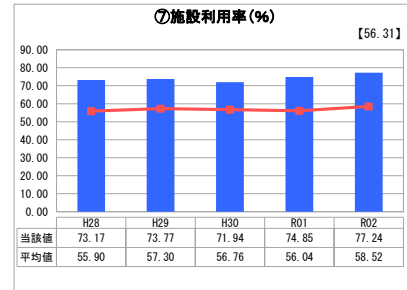
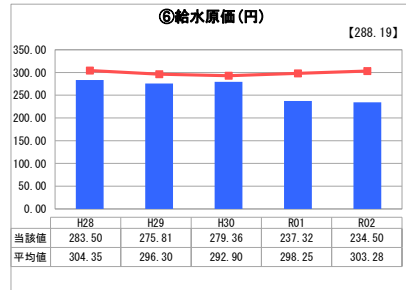
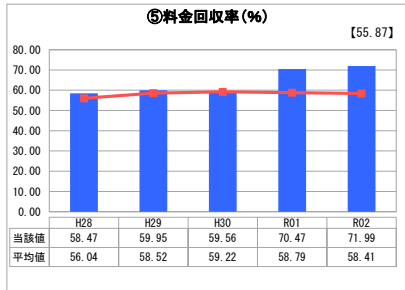
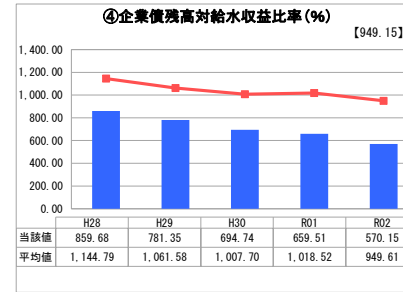
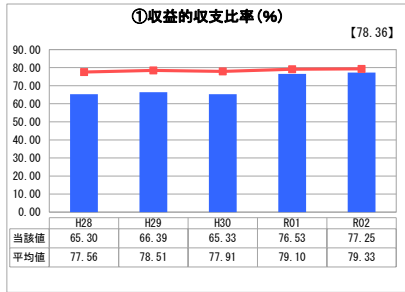
熊本県 玉東町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	86.55	3,130	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,248	24.33	215.70
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
4,544	8.70	522.30

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

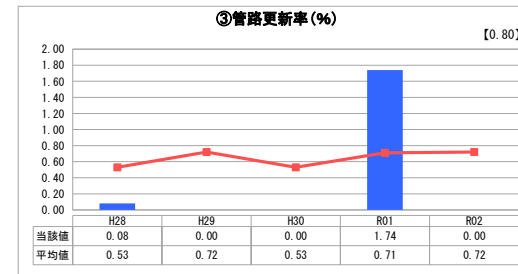
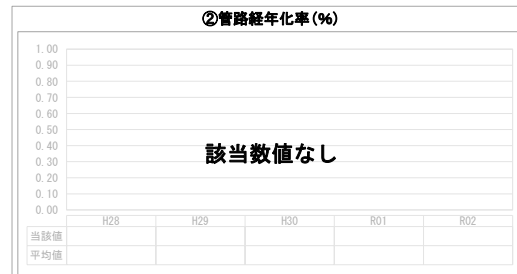
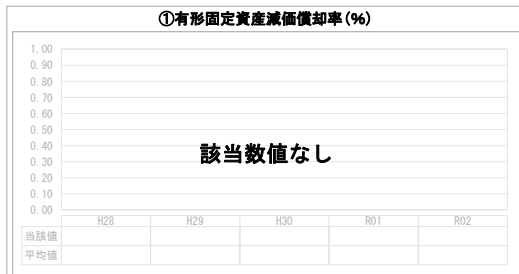
### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率は増加傾向にあり、④企業債残高対給水収益比率は減少傾向にある。これは平成20年度までに行われた継続事業により年々と地方債償還金が増加していたが、平成30年度で地方債の一部が償還されたことが要因である。今後も地方債が年々と償還されるに伴い、改善されていく。⑤料金回収率は昨年よりも増加したものの、100%を下回っていることから、経営は一般会計に依存している状態である。⑥給水原価は減少傾向にある。これも地方債の償還が進んでいるためである。⑧有収率は平均よりも高いが、漏水の早期発見により、有収率の改善に努める。

### 2. 老朽化の状況について

継続事業によって水道施設の更新が済んでおり、耐用年数を考慮すると次の更新時期が令和10年度から開始されると想定される。よって当面の状況は道路改良工事による水道管の付替え、分譲地の造成等による水道管工事等によって若干の更新を行う程度である。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

水道未普及地域の解消を目指す当初の目的はほぼ達成されたため、大幅な普及率の向上は見込めない中、給水人口は毎年減少傾向にある。必要最低限の修繕による設備の維持など、費用を抑えるため経営努力は行っているものの、料金回収率の低さや、一般会計移行に伴う支出の増加等により、一般会計からの繰入金に依存せざるを得ない状況である。しかし、引き続き、安心安全な水道水を安定的に供給していくためには、今後設備の更新が必要不可欠となっていく。そのため、水道事業ビジョン、経営戦略に基づき、計画的及び効率的に設備を更新していき、さらには、各設備の状況を的確に把握し、延命化か更新かを見極めるなど、少しでも経費の抑制に繋がるよう努めていく必要がある。